

平成30年度 埼玉県高等学校PTA連合会専門委員会研修会

11月28日に市民会館うらわのホールで行われた、家庭教育専門委員会研修会に参加させていただきました。

講演していただいたのは拓殖大学の教授であり防災教育研究センター副センター長もされている、濱口和久さんです。

『備えあれば憂いなし。我が家の防災対策』

についてのお話でした。

まずはどんな災害があるのか、からはじまり、首都直下地震は30年以内に70%の確率でおきるとのこと。

70%の感覚があいまいでしたが、火事の確率は0~2%、ガン6~8%、交通事故0~2%と聞くとかなりの確率だということがわかります。

その地震でのケガは家具の転倒、落下がほとんどだそうです。

それを防ぐには突っ張り棒をしたり、壁に止めることが必要です。

また避難するときには、通電火災を、防ぐためにブレーカーをおとしていくこと。

あと、注意と警報の意味をきちんと理解しておくことが大切と言っていました。

わかってはいるけれど、なかなか行動に警察にうつせていませんが、改めて大切なことだなと感じました。正しい知識をしっかりと確認し、備えていきたいです。



そのつぎに 代表校4校の実践発表がありました。

私が興味あったのは北本高等学校です。表は親子の会話と学習時間の相関を調査したものです。小学生、中学生、高校生ともに会話の多い子どものほうが、少ない子どもよりも学習時間が15分程度長い。特に1時間30分以上の層の部分に大きな差がみられた。親子間でのコミュニケーションが子どもの学習習慣にも影響している可能性を示唆しています。理由はわからないけど、このようなことから親子のコミュニケーションが重要なことなのだと分かります。

携帯があったり、忙しいことを理由に会話などコミュニケーションが不足がちになってしまっています。少しでも会話を楽しめる時間が作れるように工夫していきたいと思います。



小倉 美妃